

議 事 要 旨

【日 時】平成28年11月1日（火）18:30～20:05

【場 所】佐世保市中央保健福祉センター6階研修室1

【出席者】委員6名（※宮地委員は欠席）

（事務局等）塚元保健福祉部長、小寺保健福祉部次長、吉崎医療政策課長、尾崎医療政策課主幹、八木係長、石岡主任主事

東山理事長、田中事務部長、富本経理課長

（北松中央病院）東山理事長、田中事務部長、富本経理課長

（佐世保市総合医療センター）小村次長

■議題①北松中央病院 第4期中期目標期間の業務全般にわたる検討等を行う際の意見

（「資料（2）、（3）」に基づき事務局から説明）

※現状をふまえ、北松中央病院の地方独立行政法人としての役割や診療及び経営の方向性を中期ビジョンとして策定し、次期中期目標にあたっての基本的な考え方を示した。

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

○評価委員会としては意見なし

■議題②北松中央病院 第5期中期目標（案）への意見

（「資料（4）～（8）」に基づき事務局から説明）

※基本的には第4期中期目標の承継であり、現行の診療体制に影響を及ぼす可能性のある特定健診の項目を外すことや、治験やクリティカルパスの項目について、実績を考慮し削除する等の提案を行った。

◆評価委員会各委員のおもな質疑・意見

○クリティカルパスを辞める理由は何か。また、中期目標の項目にはないが、中期計画に入ってくる可能性はあるか。

《北松中央病院》 辞める理由としてはほとんど実績が無いから。（年間で1例あるかどうか）

当院の地域は、診療所がどんどん無くなっていくので、いわゆる病診連携を今後一生懸命にやっていく地域ではなくなっていく状況にある。そのため、今後、このクリティカルパスや病診連携パスを、佐世保市総合医療センター中心のものに我々が入っていく形であればあるのかもしれないが、北松中央病院を主体にして診療所と連携するというのは、だんだん難しい状況になってくるだろうと思う。

○今後も北松中央病院の機能を維持するためには、医師・看護師の確保が大事になるかと思う。

また、長崎大学が医学生の実習カリキュラムを変更予定であり、従来よりも長い期間（1か月程度）、一つの病院で実習する機会が増える。積極的に受け入れて、将来的に勤務してもらえるようにアピールしてみたいか。

《北松中央病院》 当院では奨学金制度を設けて、予定ではあと5年でその人たちが帰ってくる。3～5名程度かと思うが、それで何とかなるかとは思っている。しかし、佐世保市自体に医者がいない状況。長崎に集中している現状で、当院の診療圏でもいつ廃院があるかという状況なので、10年後はさらに廃院が出るかと思う。私たちの地域では、急性期というよりも、外来を行う病院がなくなっていく状況になるのではないかと思っている。佐世保市の開業医も高齢化しているので、十数年たったら、病院が他院に紹介したくても診るところが無いという状況で、ここが長崎市と全く違う点である。

本院では学生を受け入れて指導できるだけの医師充足率にはない状態で、1か月となると難しい状況。本来であれば当院は、12、13人の医師が必要な病院だが、医師充足率が8割に満たず、9人しかいないギリギリの状態。学生は直接患者さんを診ることが出来ないので、理事長自ら当直もしている状況下では、なかなかそこまで手が回らないのが現状。大学から指導医と一緒に来ていただければそれが一番望ましい。

○評価委員会としては意見無し。

今後についての確認

本日欠席の宮地委員への説明を行い意見があった場合、もしくは、当日配布資料の意見書による意見があった場合、最終的に委員長に一任することを確認。

◆ 次回評価委員会について

※次回評価委員会においては、北松中央病院にて作成される第5期中期計画を市が承認するにあたって、評価委員への意見伺いを予定としている。

《以 上》